

# 本興寺だより

令和五年 四月  
第二四四号

「人身は受けがたし、爪の上の土。人身はたもち難し、  
艸（くさ）の上の露。百二十まで持ちて名を腐して死  
せんよりは、生きて一日なりとも名をあげん事こそ大  
切なれ」

（宗祖 崇峻天皇御書）

桜の開花とともに新年度が始まりました。進学、進級、就職、退職等、それぞれの年代で体験したこと  
が車で通り去った風景のように、はるか彼方の記憶  
になるほど年を経たと感じる人も多いと思います。  
月日は放った矢のようにあつという間に過ぎて  
いきます。人の一生も同じです。

人としてこの世に生まれてきたことが、いかに難  
しく尊いものであるか。その奇跡で稀な命を与えら  
れて生まれながら、その身を保つことは難しく朝露  
がすぐに蒸発してしまうように、はかないものでも  
あるのです。

平均寿命は、男性八十一歳、女性八十七歳です。限  
られた命を生きがいを持って有意義に過ごして命を  
全うするには、生き方を見つめ直すことが大事だと云  
われます。

生老病死がある以上、人は老いも病も受け入れてい  
かなければなりません。体調や精神的な悩みもありま

に包まれましたが、試合を見ていて人の生き方、心持  
ちの人生の縮図を感じます。

栗山監督は、全選手に手紙を出されたとのことです。

日系人で活躍した**ヌートバー選手**も、期待と不安で  
来日して名古屋のホテルに着いた時、栗山監督からの  
懇切丁寧な手紙が届いていたそうです。内容は秘密と  
言って笑わせていましたが、忙しう中、一選手に時間  
をかけて書いてくれたことに本当に感激し、「出来る  
ことを全力でやり切り、一生懸命プレーします」と伝  
えたそうです。「**たっちゃん**」というTシャツの作成  
を指示したのも監督です。ヌートバー選手はまた「**野  
球も人生も目標を決めることを大事にしている。目的  
がなく生きることはしたくない**」とも言っています。  
若くてもしっかりと考えた考えを持っているのですね。そ  
の後の活躍は見てのとおりです。

栗山監督は絶対人の悪口を言わないとコーチが述  
べていました。**人をまとめる力は人を敬う心がないと  
できない**でしょう。立場や地位・年齢を超えて人を尊  
敬し気配りできる人に、期待や信頼が集まるのは人生  
も同じです。

人は自分が社会で必要とされていると感じられる  
時、一番力が出るのではないのでしょうか。**相手の力を  
引き出せる人、相手に元気を与えられる人にならなけ  
れば自分の豊かな心が芽生えないのです。**

野球で、もしあの一球が〇〇だったら？あの打者が  
〇〇だったら？で試合の流れが大きく変わるように、  
人生も同じです。もしあの事がなかったら・あの人

す。また生活のこと、仕事のこと、人間関係のこと等  
悩みは尽きません。人はどうしても自己中心の考えに  
偏り過ぎて、感情が優先し、狭い視野の見方、考え方  
になり易いと云われます。

その心が自分の運命を塞いでしまうと云われます。  
日蓮聖人はまた「**蔵の財よりも身の財すべからず。**  
**身の財より心の財第一なり**」と述べられています。

私たちが普通求めるのは、まず蔵の財（お金・経済  
的なもの）です。身の財（身体の健康）は身体をこわ  
すまで無頓着です。心の財（心の豊かさ）は、「その  
気持ちにこしたことはないが・」程度で無関心です。

しかし**仏様は、心の豊かさこそが、生きる  
上での全ての根源で最も大切なことである**と  
云われます。



己の心の豊かさこそが、どんな困難に遭遇  
した時でも、運命をより良く切り開いていく  
力となりご加護を頂けるのだということでは  
苦難の時こそ自分の殻に閉じこもらず、後  
悔や絶望の気持ちを捨て、希望の光を失わな  
いことなのです。暗闇にこそ燈火がより輝く  
ように。

人は孤独ではなく、たくさんの人のお蔭と支えて生  
きて、生かされていることをじっくり見つけ、感謝と  
助け合いの心を、辛い時ほど忘れるなど云われます。  
その気持ちが自身の心を豊かにして、自分の幸運を  
もたらすのだということでは  
WBCが閉幕し、日本が見事優勝して日本中が歓喜

との出会いがなかったら・で人生は良きも悪しきも  
大きく変わります。悔いの残ることは山ほどあつても、  
時の流れは車のようにバックできません。

過去の自分の考え、行動、人間関係に対する心の豊  
かさ、貧しさ、全てを認め、反省と感謝の上に未来を  
見据えて進むことが大切であると説かれます。

人生は真剣勝負で力強く生きよと云われます。ダラ  
ダラ、メソメソ、くよくよ生きれば命の輝きが失われ、  
魂が死んでしまうのだと。

人は皆世界で一つしかない**花ばかりです。他人と比  
較する必要は全くないのです。**花に汚い花や醜い花は  
ありません。皆綺麗に咲いています。人の



眼に触れる所でも、鉱山植物のように人の  
眼に触れない所でも花は変わらず一生懸命  
に綺麗に咲いています。天を見上げて。人  
の生き方も見習いたいものです。

法華経には、「**如来（仏）はありのままに  
三界（この世を含めた霊界の姿）を知って  
いる。それは生死の区別もこの世とあの世  
の区別をも超えた世界だ**」と云われています。

人は必ず死ぬのに、死んだらどうなるかを考えずに  
生き方しか考えない。それも自分に都合の良い生き方  
のみを求めがちだと云われます。

今世の命の重みとはかなさをしっかりと受け止め、心  
豊かに生きることが、崩れない本当の幸せをつかめる  
のだと云われています。